

裏磐梯地域ニチレイ社有地内のススキ草地の植生調査

薄井創太

2017年9月21日に裏磐梯地域ニチレイ社有地内に残存するススキ草地で植生調査を実施しました。参加者は黒沢高秀教授（福島大学共生システム理工学類）と薄井の2名です。

裏磐梯の森林は、人為的な影響をあまり受けなかった自然林であると考えられてきましたが、植林など的人為的な影響があった場所も多く存在することが指摘されています。かつて裏磐梯に広がっていた草原も日本では珍しい自然草原であると考えられてきましたが、屋根材や炭俵用のススキを調達するための人為的な半自然草原であった可能性が指摘されています。裏磐梯の草原は近年急速に姿を消しており、桧原湖南部の東側と中瀬沼の間に位置するニチレイ社有地内に点在するのみとなっています。

しかし、裏磐梯のススキ草地に関する歴史や利用などの民俗はほとんど明らかになっておらず、急速に失われようとしています。そこで、今回は、ニチレイ社有地内に点在するススキ草地で植生の調査を行いました。ニチレイ社有地内には低木などが多いもののススキの草地が維持されています（図1）。今回の調査で得られた現在のススキ草地の植生のデータを解析し、過去の航空写真や文献、資料と合わせて裏磐梯の草原の生態や歴史を明らかにしていきます。

調査にあたって、株式会社ニチレイに便宜を図っていただきました。お礼申し上げます。



図1. 裏磐梯のニチレイ社有地に残存するススキ草地の様子